

2014年 事業報告

7月7日	委員会(総会)
7月27日	指導要員チーム会議・第2回10月19日開催
2月28-3月1日	第 25 回大谷スカウトリーダー研修会
3月26-30日	第 56 回大谷スカウト名誉奉仕訓練 於:同朋会館
常任委員会	7月7日・7月8日・10月20日ほか2回開催

第56回 大谷スカウト名誉奉仕訓練

団委員長 経森 等(北海道教区函館第3団)

恒例の「名訓」が今年も開催されました。21 名の参加申し込みに、物足りなさと昨今の高校生の覇気の無さなどを気にしながらの受付。しっかりしたザックを背負ってくる姿を思い浮かべていたら、半数以上がゴロゴロを引いての集結に多少がっかりしました。20 年振りの奉仕で、時代感覚のズレは私の方だったのだろうか。受付終了後の「参加の心構え」で、『動機はいかようであれ、自らの意思で参加し、仏教章取得を目指す』の確認と、『後戻りせず自己研鑚に励むという決意表明』をして「道心門」をくぐり抜け、4泊5日の研修がスタートしました。

3日目の28日には真城義麿先生の『仏教の創始から伝来とお釈迦様の教え』を中心とした『特別講義』をスタッフ共々拝聴しました。すこぶる明晰なお話を聞かせていただき、引き続きの班別座談では難問珍問のやり取りに時間を忘れるほどの大盛り上がりをみせました。

期間中、阿弥陀堂御修復工事による多少の不便さと急な奉仕スタッフ変更などによる人手不足はありましたが、当初心配していた参加者の「おとなしさ」は日を追うごとに消え失せ、 日程後半に展開された「大Sフォーラム」、「名訓ハイク」、「名訓大営火」などではスカウトらしい活発な動きと溌剌とした意見のやり取りが、いよいよ仲間同士の心を燃やし始めました。スタッフもその熱意に呼応して、深夜に及ぶ打ち合わせと準備で寝不足の日々を過ごさせていただきました。



聖蹟ハイクで六角堂に参拝するスカウト

今回の「名訓」は、団委員長も隊長も初めてという前代未聞なことで、その重責を私自身心配していましたが、ベテランの団委員諸氏からの助言と協力で、よれよれの任務遂行ながらも、貴重な体験をさせていただき感謝あるのみであります。 首尾よく「仏教章」を取得できたスカウトはこれが出発点であり、多くの機会を作って仏法聴聞に励んで頂きたいと願う次第です。

今後の課題として、中堅リーダーの奉仕者不足があります。自己鍛錬と「大谷スカウト」を学ぶ絶好の機縁ですので、熱血なリーダーのチャレンジを待ちたいと思います。また、「比叡山ハイク」は季節的制約などがあるものの実施の方向を検討すべきだと考えます。さらに、当協議会に登録されているガールスカウトからの参加者が近年ほとんどない状況は残念なことであり、積極的な参加が望まれます。(経森)

第25回 大谷スカウトリーダー研修会

北名古屋第1団 平野 嘉彦(名古屋教区)



あいにくの雨で朝礼は大寝殿となった。

先ずもって本研修会を開催運営されたスタッフの皆様方に心より厚く御礼申しあげます。

2月28日から3月1日までの二日間、京都教務所を会場に『大谷スカウトとは一伝統・伝承・伝道ー』のテーマで開催され、全国から24名の仲間たちが参集しました。

私たちの運動が今後どうあるべきかを考える 最良の場であるとの思いで参加いたしました。 御縁を戴き、大谷スカウトとして関わってきた 50年を振り返ってみますと、多くの先輩・同輩・ 後輩諸氏の指導、支援を戴きようやくここまで 歩いて来ることができました。



堀先生の基調講演(歴史・大谷スカウトとは・心を伝える)、健児団からボーイスカウト運動への変遷の中、宗門の先達皆様が日本連盟の再興に関わら

れ、最先端を歩いてこの運動に影響を与えられたこと、『ちかい』制定に関わられ現在の指導者研修の礎を確立されたこと等々、この活動に大いなる影響を与えられた先達の思い、大谷スカウトの使命を伝えていかねばなりません。

大谷スカウトとは、私達の願いを、『ちかい』 『おきて』の実践(努力しても守れない・できな い私がいます)を通しどの様にして伝えていくか。気付くこと・気付かされること、改めて再確認することができました。

分科会では、『一伝統・伝承・伝道―』に関わる問題提起がなされ、心を伝えることの難しさ、仏教行事など形としての行事を利用した伝導機会は多くありますが、あらゆる場所で与えられた環境でスカウト達へ如何に伝えていくかを、参加者の皆さんが、諸事多く問題をお持ちになり、直面している事象を話し合いそれぞれの立場から団運営者・隊運営者・役務に於いて熱い思いが討議されました。

私が、次世代へこの活動本来の姿を如何にして伝えることができるか、種々な機材を利用して、年代に応じた伝導をすることにより興味を持たせ、幼年時代(ビーバー・テンダーフット)からの一貫教育を目指す皆さんの思い、その姿を熱く感じ、今後の活動を考えることが出来た機会でした。

大谷スカウトの誇りをもって。『ちかい』と『お きて』に励まされ、『みほとけと私の共同作業』 の言葉を心に持ち続けます。(平野)



会場となった京都教務所二階研修室。

北から南から教区だより

報告

函館にスカウト95名が集結!

北海道教区大谷スカウトのつどい

期 日 2015年7月18日(土)~20日(月)

スカウトソングをまだよく知らないビーバーたちも『われらは栄えあるスカウト大谷!』 と歌い出すと、大きな声と手拍子で一緒についてくる。とても嬉しかったです。

「宗祖親鸞聖人のみ教えを礎として活動す る北海道内の大谷スカウトの仲間が集い、出 遇いを通して人として生まれた喜びを再発見 しよう。」という開催趣旨で、北海道教区大谷 スカウト協議会の主催で7月18日から3日 間の連休を利用して『ふるる函館』という函 館市の青少年研修センターを宿泊会場に『大 谷スカウト夏の集い』を4年ぶりに開催しま した。道内6カ団からスタッフとスカウト9 5名が参加。各団対抗ゲーム大会に始まり、 夜は「世界三大夜景」と称される函館山から の夜景観賞。翌日は港内クルージング遊覧と 市内歴史探索ハイク。夕方からは各団お得意 の名物料理をいただく「寺内町祭り」。そして、 しめくくりは「キャンプファイヤー」 『おお 懐 かし仲間集いきて ふたたび結ぶ友がきよ』 と、最高潮の盛りあがりを見たことです。

最終日は朝から函館別院に移動して仏教礼拝。『当たり前ではない普段の生活の尊さを知る』という別院職員からの法話を聴聞しました。その後、勇壮な航海をしていた青函連絡船「摩周丸」展示館の見学と函館名物朝市で、やっとありつけた美味しいおいしい北の魚介に舌鼓。あふれんばかりの楽しいプログラムを規能したことです。

『全国の大谷スカウトの集いをぜひまた 開いて欲しいですね』と、多くの参加者から 声が挙がっておりました。 (経森)



うまいぞ、うまいぞ、ソーメン流し



函館別院の仏教礼拝でご法話を聴く



函館港内クルージングにピース

BS 仏教章

大谷派 GS 仏教章





2014 年度 仏教章取得者

2014年7月1日~2015年6月31日 教区順 40名

教 区	氏 名	団 名	教区	氏 名	团名
奥辺	寺山 大裕	青森第1団	岡崎	井出千亜紀	豊田第9団
山形	安達保乃香	山形第1団	岡崎	杣田 歩	豊田第9団
東京	助川菜々子	日立第5団	岡崎	杉山 涼香	岡崎第3団
東京	大越慎之助	墨田第8団	岡崎	榎本 大湖	岡崎第1団
東京	田所治朗	板橋第 15 団	名古屋	野瀬 貴斗	蟹江第1団
東京	中村 和奏	柏 第1団	名古屋	近藤 夏代	蟹江第1団
東京	黒沼 雄太	柏 第1団	名古屋	石川 翔太	愛知第 109 団
東京	飯塚 妙	柏 第1団	名古屋	佐藤 愛來	一宮第 14 団
東京	佐々木日夏	柏 第1団	三重	柴田 裕介	亀山第4団
金沢	東 琢栄	金沢第1団	京都	田中 智也	倉吉第3団
金沢	一谷 聡子	金沢第1団	大 阪	松田 玲夏	大阪第 11 団
小 松	松島加奈子	寺井第1団	大 阪	砂山真帆	大阪第 11 団
福井	川中 康平	鯖江第2団	大 阪	八木 直樹	大和高田第7団
岐 阜	田中 克茂	大垣第7団	大 阪	小林 凌	大和高田第7団
岐 阜	三摩 真里	大垣第7団	大 阪	宮本 司	豊中第5団
岐 阜	馬渕・映見	大垣第7団	大 阪	成本 康洋	生駒第 10 団
岡崎	田代真友香	岡崎第3団	大 阪	井上 潤	大阪第 11 団
岡崎	砂田憲広	みよし第2団	大 阪	高野 洋行	香芝第2団
岡崎	加藤 実梨	岡崎第3団	大 阪	杉山 裕其	北葛城第7団
岡崎	上田遼太朗	岡崎第 12 団	大 阪	岩城 順也	北葛城第7団











大谷スカウトブース開設

7月 28 日 (火) から8月8日 (土) までの 12 日間にわたって、第 23 回世界スカウトジャンボリーが山口県きらら浜で開催されました。 4年に一度開催されるジャンボリーの国内開催は、第 13 回大会に続く 44 年ぶり 2 度目であり、日本の参加者 6 千人を含む 155 の国と地域から 33, 628 人が参加して国際色溢れる大会となりました。

7月28日(火)午後から WSJ のプログラムの一つである「信仰奨励ゾーン」に日本仏教スカウト協議会(JBSC)が中心となって「日本の信仰奨励エリア」の会場設営(ブース)を行い、翌29日から仏教協議会9教宗派に神道系3教団が加わって日本の信仰奨励エリアがオープンしました。

各教宗派では、10 日間にわたるブース運営にスタッフを配置して、ブースを訪れる世界のスカウトたちに、本大会の公用語である英語・フランス語のリーフレットやステッカーを配布して各教団のことや宗祖(教祖)を紹介しました。また、JBSCが用意した「念珠キット」を利用したり、全仏連から届けられた英語版『まんが仏教のひみつ』や『ブッダのおしえ』を活用し、日本の信仰を分かりやすく紹介することに勤めました。

大谷派では、宗祖親鸞聖人を紹介することにこだわり英語版「SINRAN OF LIFE」と日本語版「宗祖親鸞聖人の生涯」のリーフレットを配布しました。本山を紹介するのに出版部発行の英語版リーフレットが役立ちました。若き親鸞聖人を配したステッカーも外国スカウトたちには人気がありました。これら「日本の信仰エリア」の運営にあたったのが、日本仏教スカウト協議会(理事長石神明=大谷スカウト連合協議会委員長)であり担当宗派である真宗大谷派でした。会場となった山口県には、当派の寺院が殆んど無く、なれない現地業者との折衝や仏具の持ち込みなど不便なことも多い中、当派大谷スカウト指導者の皆様には大変お世話になりました。連日の酷暑に苦しめられたことはいつの間にか遠い想い出となりました。

23WSJ世界仏教スカウトのつどい!

大会第6日目の日曜日午前 11 時からアクテビティゾーンにおいて「世界仏教スカウトのつどい」が開催されました。日本仏教スカウト協議会が主催するもので、担当宗派にあたる大谷派の法要作法で集いが執行され、熊本県八代第3団の高村一緒さんと小島未来さんがスカウトを代表して供灯・供華を行い、大谷暢裕鍵役の導師で参加したスカウト約3,000人が全員で「嘆仏偈」を唱和しました。

続いて、木越渉参務から「私にて分ください」 と、炎天下の参加者を気遣いながら日本語と英 語による法話があり、姿勢を正して法話に聞き 入る海外スカウトの姿が印象的でした。

最後に、札幌第4団のラトール斗志治さんが参加スカウトを代表して、「仏教スカウト平和宣言」を行いました。仏さまの教えを聞きながら争いのない平和な社会の実現に向けて、世界中が手を取り合って歩みをともにすることを確かめ合いました。第二次世界大戦終結から70年という節目に当たる年に開催された集いは、国内仏教名教宗派関係者の篤いご協力によって、仏教スカウトにふさわしい集いになりました。









2015 事業計画

7月6日	委員会 (総会)		
7月29日-8月8日	23WSJ信仰奨励ゾーン大谷ブース開設		
10月18日	指導者要員チーム会議		
2月27—28日	第3回東西合同研兼第26回大SL研修会		
3月26-30日	第 57 回大谷又力ウト名誉奉仕訓練		
常任委員会	7月6日・7月7日・10月19日・以降3回開催		

第26回大谷スカウトリーダー研修会 第57回大谷スカウト名誉奉仕訓練

●開催趣旨

第3回東西スカウト指導者研修会と兼修開催 の予定です。担当宗派は、西本願寺です。

- ●テ ― マ 「青少年と宗教教育」 なぜスカウトに宗教が必要なの?
- 間 2016年2月27日(土)~28日(日) 一期
- ●余 場:京都聞法会館(西本願寺北側)
- ●募集人数:40名
- ●運 営:本派S指導者会・大S連合協議会

●開催趣旨

親鸞聖人のみ教えに学び、ともに大谷スカウ トとしての自覚と自信を深める。

- ●期 間 2016年3月26日(土)~30日(水)
- 金金 場:東本願寺同朋会館
- ●講師:未定
- ●募集人数:48 名(BS 36 名•GS 12 名)
- ●団委員長:経森 等(函館第3団々委員長)

44 年前に開催された 13WJ のテーマは相互理解(for understanding) 編集後記 だったと記憶している。シンプルでカチッとした明朝体の文字に日本人 としての誇りみたいなものを持った記憶がある。今回の大会テーマはWa(和)!一であった。 わが国で最初に「和」を使ったのはおそらく聖徳太子である。「以和為貴、無忤為宗」(和を もって貴しとし、さかうること無きを宗とせよ。)と十七条の憲法第一条にある。憲法という よりも一定の手続きを踏んで、当時の政治に携わる官人の心得を 17 条の文章にしたものであ る。官僚の質を高め、隋や百済との外交をすすめる。そして、日本の立場を確立しようとする 聖徳太子の意気込みに溢れた条文である。

今大会のテーマ Wa(和)も日本の伝統文化などの魅力を世界に広げようとする気持ちと平和 の大切さを主張したものだった。大会シンボルや日本派遣団のシンボルマークも結びや水引を 取り入れた日本らしさに好感が持てた。こうした和ティストのもとで開催された大会だった が、信仰奨励エリアには、国内スカウトの姿が殆んど見えず外国スカウトの姿が目立ったこと が気がかりなところである。十七条の憲法第二条には「篤敬三宝、三宝者仏法僧也。」(篤く三 宝を敬え。三宝とは、仏と法と僧なり。)とあり、聖徳太子は仏教精神を根本とした人づくり を目指した。親鸞聖人は「和国の教主聖徳皇」と、こうした聖徳太子を日本の釈尊だとして尊 敬しておられたのだが…。さあーどうする、現代ニッポンの人づくり!

- ●発行日:2015年11月15日 ●発行:大谷スカウト連合協議会 http://homepage2.nifty.com/tanisco/
- ●事務局:〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下ル上柳町 199 しんらん交流館内

真宗大谷派青少幼年センター スカウト係 **13** 075-354-3440 FAX075-351-9599